

## (4) 南 関 東



南関東地域では、景気は東日本大震災の影響により、大幅に悪化している。

- ・ 鉱工業生産は東日本大震災の影響により、大幅に減少している。
- ・ 個人消費は東日本大震災の影響により、減少している。
- ・ 雇用情勢は東日本大震災の影響により、悪化し、厳しい状況にある。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す( \_は上方に変更、\_は下方に変更)

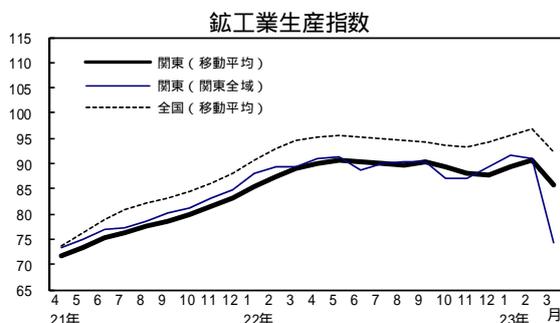
### 前回調査からの主要変更点

	前回(平成23年2月)	今回(平成23年5月)	
景況判断	持ち直しの動き	東日本大震災の影響により、大幅に悪化	
鉱工業生産	持ち直しの動き	東日本大震災の影響により、大幅に減少	
個人消費	おおむね横ばい	東日本大震災の影響により、減少	
住宅建設	大幅に増加	増加	
雇用情勢	厳しい状況にあるものの、持ち直しの動き	東日本大震災の影響により、悪化し、厳しい状況	

### 1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は東日本大震災の影響により、大幅に減少している。(関東全域)

輸送機械は、1～2月は海外向けの普通乗用車が好調に推移していたことから増加していたが、東日本大震災による部品の供給不足や計画停電に伴う操業率の低下により、減少している。また、1～2月に半導体製造装置等の海外向けがけん引役となって堅調に推移したことから増加していた一般機械や、電気機械も同様に減少している。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		10～12 月期	1～3 月期	1～3 月期	1～3 月期
輸送機械	15.2	12.1	4.5	3.2	40.6
化学	13.4	1.1			
一般機械	13.2	1.9	3.4	3.9	2.0
電気機械	7.8	2.3	2.7	4.0	6.1
食品・たばこ	7.1	8.8			
鉱工業	100.0	2.7	2.5	4.1	4.9

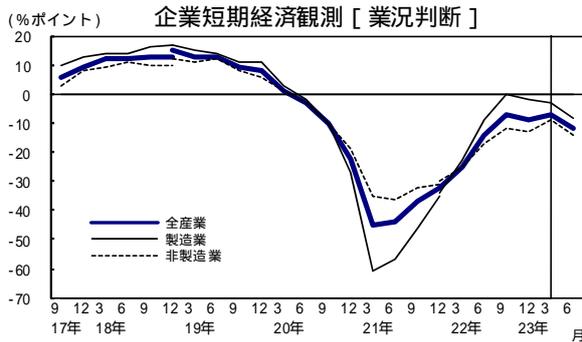
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 1～3月期は速報値。化学、食品・たばこは、速報値では公表されていない。

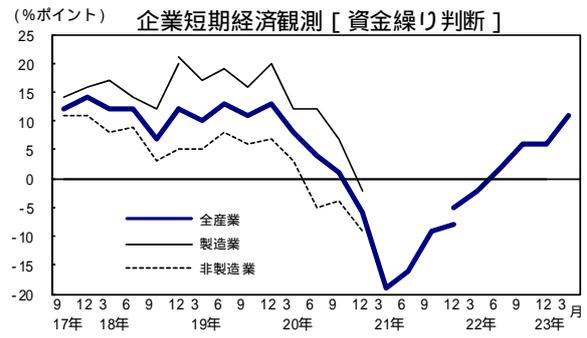
(備考) 1. 17年=100、季節調整値。関東の最新月は速報値。

2. 全国及び関東の大線は後方3か月移動平均。

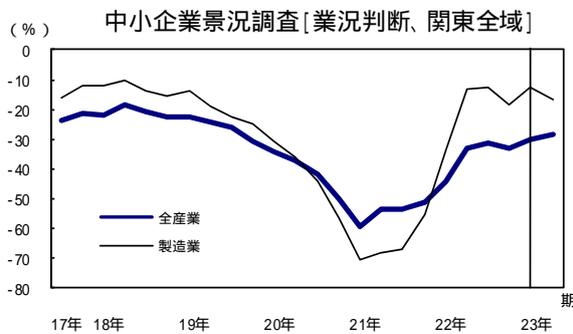
(2) 業況判断、資金繰り判断  
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。23年6月は予測。  
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。  
関東全域(新潟県を含む)。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。  
日本銀行横浜支店管内。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。23年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

「東日本大震災の影響で、メインの取引先の自動車販売会社では、工場で車が生産できず売れる車がなくなり、納期も見えないため、宣伝等を自粛している(広告代理店)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

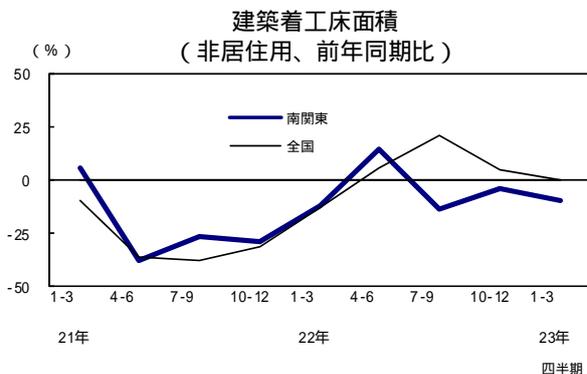
(3) 設備投資

企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

	(前年度比、%)	
	22年度実績見込み	23年度計画
全産業	10.6( 4.7)	17.4
製造業	8.9( 5.0)	21.0
非製造業	14.3( 3.9)	8.8

(備考)( )は前回(12月)調査比修正率。

調査対象は神奈川県。



## 2. 需要の動向

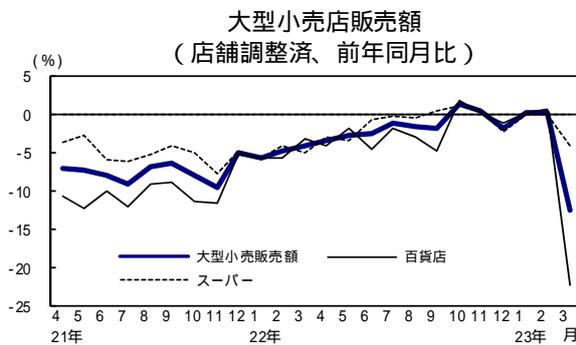
(1) 個人消費は東日本大震災の影響により、減少している。

### 大型小売店販売額

百貨店は、1月は、初売り恒例の福袋が活況であったことや、異常乾燥が続いたため保湿効果のある化粧品が活発に動いたことから前年を上回った。2月は、3年ぶりの平日となったバレンタインデーのギフト需要のため飲食料品が好調であったことから前年を上回った。3月は、東日本大震災の影響による消費者マインドの冷え込みや計画停電による営業時間の短縮等により入店客数が減少したことから、前年を大幅に下回った。なお、日本百貨店協会によると、東京地区の4月の売上高は前年同月比5.5%減となっている。  
スーパーは、東日本大震災の影響により保存食を中心とした飲食料品や防災関連用品が好調であったことから、前年を上回った。

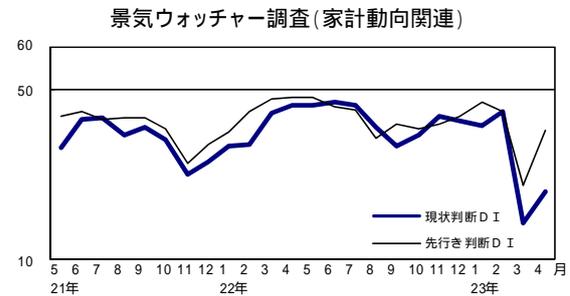
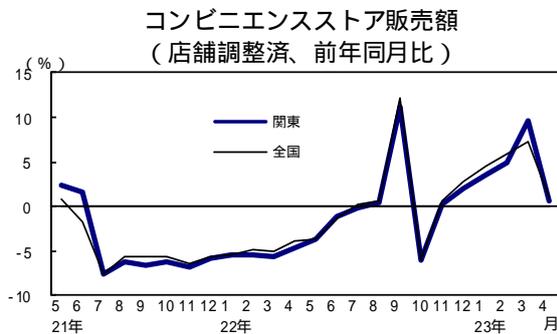
### 景気ウォッチャー調査(4月)[家計動向関連(現状)]

「東日本大震災の関係で、4月の団体又は個人客の約9割がすべてキャンセルと、非常に厳しい月になっている。また直後ということで、何も関係ない海外旅行のキャンセルも相次いでいる(旅行代理店)」など、「悪くなっている」とする回答が多くみられた。



	(前年同月比、%)			
	22年4-6月	7-9月	10-12月	23年1-3月
大型小売店	3.0	1.5	0.2	4.3
百貨店	3.6	3.2	0.1	0.1
スーパー	2.5	0.2	0.5	0.5
乗用車	19.3	11.5	24.9	24.9
景気ウォッチャー	46.8	41.6	42.0	35.1

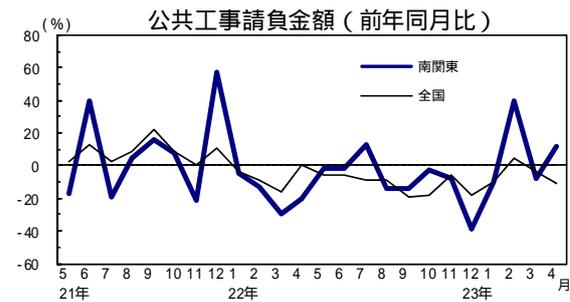
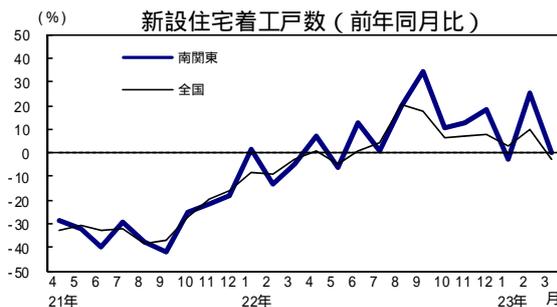
- (備考) 1. 大型小売店は店舗調整済。23年1-3月期は速報値。  
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。  
3. 乗用車は乗用車新規登録・届出台数。



(2) 住宅建設は増加している。

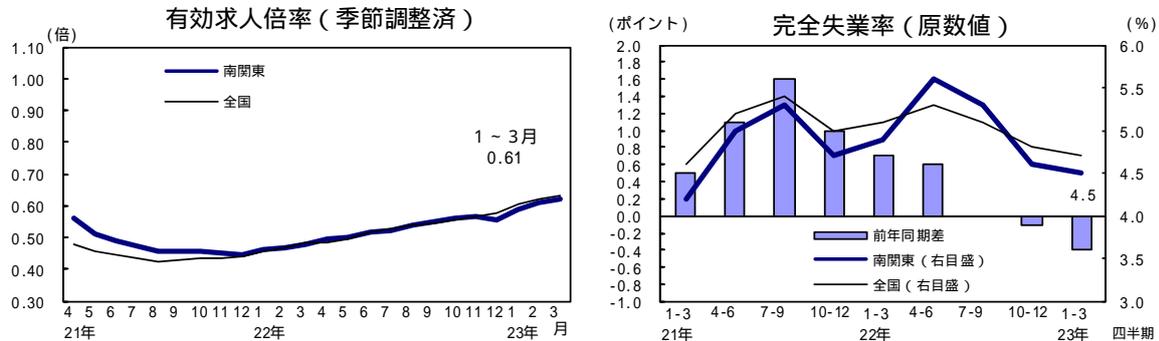
分譲が前年を上回ったことから、全体でも増加している。

(3) 公共投資は22年度累計で見ると前年度を下回っている。



### 3. 雇用情勢等

- (1) 雇用情勢は東日本大震災の影響により、悪化し、厳しい状況にある。  
有効求人倍率及び完全失業率等  
有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。3月の新規求人数は減少している。

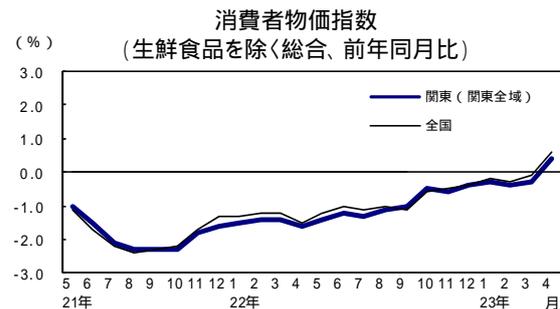


景気ウォッチャー調査（4月）[雇用関連（現状）]  
「採用予定が未定だった企業で、採用中止を決定する企業が多く見られている（学校[専修学校]）」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

- (2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。  
(3) 消費者物価指数は前年比の下落幅が縮小している。

#### 企業倒産

	(件、億円、%)				
	22年4-6月	7-9月	10-12月	23年1-3月	23年4月
倒産件数	1,118	1,038	1,087	1,009	354
(前年比)	10.5	17.8	4.5	13.1	6.3
負債総額	4,567	13,478	3,255	2,288	650
(前年比)	30.3	245.3	10.5	91.9	42.7



#### 景気ウォッチャー調査（4月）[合計（特徴的な判断理由）]

##### <現状>

- 東日本大震災の影響も一回りし、普段の購買動向は落ち着きを取り戻しつつある。計画停電がなくなったと宣言されたことが良い方向に導いている（商店街）

##### <先行き>

- 雇用調整助成金の申請が増加している状況と、福島第一原子力発電所の事故処理の遅れによる風評被害、夏場の電力不足等が心配されることから、現状と変わらない(職業安定所)

